



今回のガイド

ひらむき よしお  
平向 與志雄さん

松山歴史公園内にあり、藩政時代の錯究や郷土資料、真下慶治の作品を展示する「松山文化伝承館」の館長。生まれも育ちも松山。

220年、町を見守りつづける大手門。  
城下町という言葉にはどこか特別な響きがある。地理や文化に特徴があるのもひとつ。だがそれ以上に、その町の人々から誇りのようなものを感じるのだ。今回訪れた松山地区は、松山藩の城下町として栄えた地域だ。その歴史は寛文2年（1662年）、庄内藩の初代藩主・酒井忠勝の三男忠恒が2万石分与され、当時17戸のみだった寒村に屋敷を構えたことから始まった。ガイド役の平向さんとは大手門で待ち合わせた。「ここは昔、松嶺高校の一部で、その前身の正心学校ときは、大手門は校長室として使われていました」。えっ、門が校長室ですか？「そう。中に床や壁を付けて。2階では女子生徒たちが裁縫の勉強をしていました」。その後、高校は今の里仁館の場所へと移転したそうだが、城の中で勉強なんて何だか素敵だ。松山城下は3万8千坪もあったため、住宅地にお堀の跡が残っている。老松を眺めながら「今、私たちはお

城の中にいるんですね」などと思いを馳せつつ歩くのが楽しい。遺構から浮かび上がる江戸時代の人々の姿  
「ここが、十三間濠です」。連れられてきたのは、地面が大きな長方形に掘られ、水が張られた場所。25メートルプールのようなここは、三の丸の外にあったお堀の跡だそうだ。「十三間というのは、弓矢が届く限界だったのでしょう」。その一言にはっとした。私はこれまで城下町というものに「特に活気のある商店街」くらいにイメージしていたが、そんな呑気な場所ではなかった。いつ攻められてもおかしくない。人々は覚悟と備えを伴って暮らしていたのだ。城下町という特別な雰囲気の原因は、このようにやぐづいた。「ここに城が置かれたのは、交通の難所だったからです。最上川を越えなければたどり着けず、攻めにくい。松山地域は昭和30年代に橋が架けられるまで、陸の孤島でした」。堀をぐるりと囲む桜の木々が、城下に暮らした人々の芯の強さと重なっ



手入れが大変なため現在は少なくなったが、松山は杉の生け垣が多かった。



飛び石が石目だよ

門の瓦には酒井家の「角にかたばみ」紋。ちなみに鶴岡の本家は丸紋。



# ふらり松山城下町散歩

第1回 庄内みどころ

再発見

Supported by 庄内広域行政組合

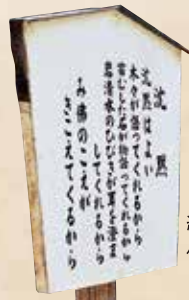
「庄内みどころ再発見」は、その町に詳しい人と歩き、地域の魅力を伝える新シリーズです。第1回は、城下町の面影を残す酒田市の松山地区を訪れました。





# 耳より松山 かわら版

町で見つけた面白いものや  
耳よりの情報を  
選りすぐってお届けします！



総光寺の庭園は沈黙の  
似合う国指定の名勝！

昨年度の教養講座  
「庄内浜のアバと魚  
食文化」の1コマ。庄  
内浜文化伝道師マイ  
スターの佐藤初子さ  
んによる料理教室。



## 地域の学び舎・里仁館

「教育の松山」と呼ばれた地域の文化を絶やしてはならないと、閉校になった松嶺里仁館高校を利用して、平成14年に誕生した生涯学習施設。論語の「里仁為美(仁に里(お)るを美と為す)」を開学の精神とし、幅広い年代が参加している。内容は「江戸時代の庄内の町や村」「モリ供養」といった学術的なものから、「秋から冬への樹木管理」といった日常に生かせる知識までさまざま。9月スタートの後期11講座は、現在、受講の申し込みを受付中。

☎0234-61-4361



お城と学校のコラボ



まるできのこ。



だもま印のお醤油屋さん



## 松山ゆかりの著名人たち

まつもり たねやす  
**松森 胤保**  
幕末に活躍した松山藩家老。当時の動植物を記録した『両羽博物図譜』を著し、飛行機の模型を製作するなど、多岐にわたる研究で“日本のダヴィンチ”と称される。

## あべ じろう 阿部 次郎

松山出身の哲学者。著書『三太郎の日記』で広く青年に感化を与えた。生家は現在、阿部記念館として保存され、功績や資料を展示。



## 庄内平野の大パノラマ 「眺海の森」

頂上の展望台からは庄内平野を一望できる。特に、鳥海山や日本海に沈む夕日は絶景。天体観測館「コスモス童夢」では、人間の目の5000倍の光を集められる直径50cmの反射望遠鏡で、空を眺めて楽しめる。

☎0234-61-4012



まんじゅう三兄弟！

町の名物は黒糖入の薄皮饅頭。菓子舗 桜田の「松山まんじゅう」、菓子司 酒田屋の「利久まんじゅう」、藤谷菓子舗の「松山茶まんじゅう」と、町内3軒の菓子店がそれぞれの名前で作っている。味も少し違って、食べ比べが楽しい。



## 松山藩の文化を伝える 「松山文化伝承館」

6月22日(日)まで「出羽松山の武具甲冑展」を開催中。5月3日～6日には甲冑の着付け体験も。

☎一般360円、高大生250円  
小中生100円

🕒9:00～16:30

📅月曜日(祝日の場合は翌日)

☎0234-62-2632



総光寺は欄間の彫刻も美しい。「葡萄とリス」は子孫繁栄のモチーフ。



総光寺の欄間彫刻  
「葡萄とリス」

社に抜ける。「この地域の守護神

里仁館の裏を通って、中山神

## 草木が芽吹く春の松山

## 松、杉、桜

を紡ぎ続けている。

とつとして、この地で今なお糸

会社社です」。日本に残る2社のひ

は、「松岡」の看板。「絹の製糸

時、この町で興ったのが養蚕業

でした」。話しながら指差す先に

後、明治維新で武士が失業した

山は文化的に潤っていた。「その

最新の砲術などを持ち帰った。

小さな藩ながら、江戸時代の松

阪城の警護のたびに、上方から

を取り入れ、大阪加番という大

ました」。参勤交代で江戸の文化

をとり入れ、大阪加番という大

阪城の警護のたびに、上方から

を取り入れ、大阪加番という大

ました」。参勤交代で江戸の文化

をとり入れ、大阪加番という大

ました」。参勤交代で江戸の文化

をとり入れ、大阪加番という大

ました」。参勤交代で江戸の文化

をとり入れ、大阪加番という大

ました」。参勤交代で江戸の文化

をとり入れ、大阪加番という大

ました」。参勤交代で江戸の文化

編集・文〓松本典子 写真〓間真由美

松山 桜田の「松山まんじゅう」



松山 眺海の森 展望台

閉校した高校の校舎を利用した、  
「生涯学習施設 里仁館」

